



地域が支援する 都市農業モデルの実証試験

東京都狛江市 狛江版CSA



農地の多面的機能を発揮することで以下の課題を改善

- ①農地を用いた資源循環モデルの構築
- ②地産地消の拡大
- ③都市住民の農地保全の理解醸成

具体的な取り組み

①ミミズコンポスト

飲食店、農地、住宅から排出される植物性の生ごみや調理くずなどをミミズを活用して堆肥化し、出来た堆肥を農地・緑地で利用する資源循環モデルを実現。

②ホップ栽培（アドプト緑化）

ホップ栽培キットを市民の手で育生し、収穫されたホップを活用したオリジナルビールを製造。その販売利益の一部を緑化活動資金に還元することで持続的な緑化活動を実現。

③生き物除草[®]

騒音・植物性廃棄物・CO₂を発生しない生き物（ヒツジやヤギなど）を活用した、農地や公園、河川敷の環境にやさしい除草を実現し、住民の農地保全の理解醸成に役立つ。

東京都 狛江市



面積：
6.39km²
人口：
82,900人
人口密度：
12,973人/km²
(2019年4月1日現在)

東京都の多摩地域東部に位置する住宅都市。都心に近く、かつ自然が豊富なベッドタウン。

狛江 CSA

COMMUNITY SUPPORTED AGRICULTURE



CSA（地域が支える農業/Community Supported Agriculture）の取り組みは、欧米を中心に、消費者が地場の生産物を定期的に直接購入し、地域の農業を支援するシステムとして拡大してきました。最近では、生産物の売買だけでなく農作業の手伝いなどを通して、生産者と周辺のコミュニティを結びつけ、より強固な関係を築く取り組みが試みられています。鹿島は、東京都狛江市をフィールドとして、市内の農業従事者、飲食店、学校などのご協力の下、食品残渣の循環利用や農地・公園の循環型維持管理を試験的に実施しています。これは、農地や農業を循環型まちづくりに活用する狛江オリジナルのCSAを提案するものです。

（国土交通省「平成28年度 都市と緑・農が共生するまちづくりに関する調査」 「農地・緑地空間を活用した循環型まちづくりの持続的マネジメント手法に関する実証調査 ～狛江版CSA～」）